

2019年3月期 第3四半期 決算の概要

2019年2月1日

日本ユニシス株式会社

Foresight in sight

良好な事業環境のもと、サービスビジネスが伸長し増収増益。
収益性向上により営業利益率は+1.3pt改善。通期見通しに対し順調に進捗。

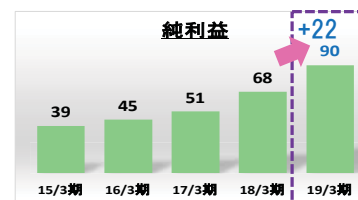
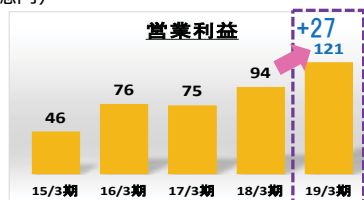
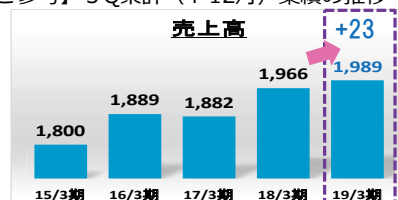
(単位：億円)

	3Q累計 (4-12月)		前年同期比 増減	
	2019/3期	2018/3期		
売上高	1,989	1,966	+23	+1.2%
売上総利益	503	477	+27	+5.6%
販管費	▲382	▲382	+0	+0.0%
営業利益	121	94	+27	+28.3%
(営業利益率)	(6.1%)	(4.8%)		(+1.3pt)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	90	68	+22	+33.0%
受注高	2,041	2,062	▲21	▲1.0%
受注残高	2,259	2,203	+55	+2.5%

<3Q累計決算のポイント>

- 売上高
システムサービスおよびアウトソーシングの伸長が製品販売の減収をカバーし増収。
- 営業利益
増収効果およびサービスビジネスを中心に売上総利益率が向上し増益。営業利益率は+1.3pt向上。
- 受注高・受注残高
受注高はシステムサービスが積み上がるも、前年同期に大型アウトソーシング案件を計上した影響等で減少。受注残高はシステムサービス案件が着実に積み上がり増加。

【ご参考】3Q累計 (4-12月) 業績の推移 (単位：億円)



UNISYS

1

©2019 Nihon Unisys, Ltd. All rights reserved.

CFOの向井でございます。

はじめに2019年3月期第3四半期の決算概要について、ご説明いたします。

資料の1ページをご覧ください。

第3四半期累計の業績は、売上高は前年同期比+23億円増収の1,989億円、営業利益は前年同期比+27億円増益の121億円、四半期純利益は前年同期比+22億円増益の90億円となりました。

良好な事業環境のもと、売上高はシステムサービスおよびアウトソーシングが伸長し、製品販売での減収を吸収して+23億円の増収となっております。

利益面では、増収効果並びにサービスビジネスを中心に収益性が向上していることから売上総利益が前年同期比で+27億円増加し、販管費は前年同期並みの費消で推移しましたので、営業利益は+27億円の増益となりました。営業利益率は+1.3ptの改善となり、収益性の向上が着実に進捗しております。

また、営業増益に伴い純利益も+22億円の増益となっております。

受注高につきましては、システムサービスが複数の中小型案件の獲得から大きく伸長したものの、前年同期に契約期間が長期にわたる大型のアウトソーシング案件を複数受注していた影響から、前年同期に比べ▲21億円減少しています。

受注残高につきましては、システムサービスでの積み上がりが大きく、+55億円の増加となりました。

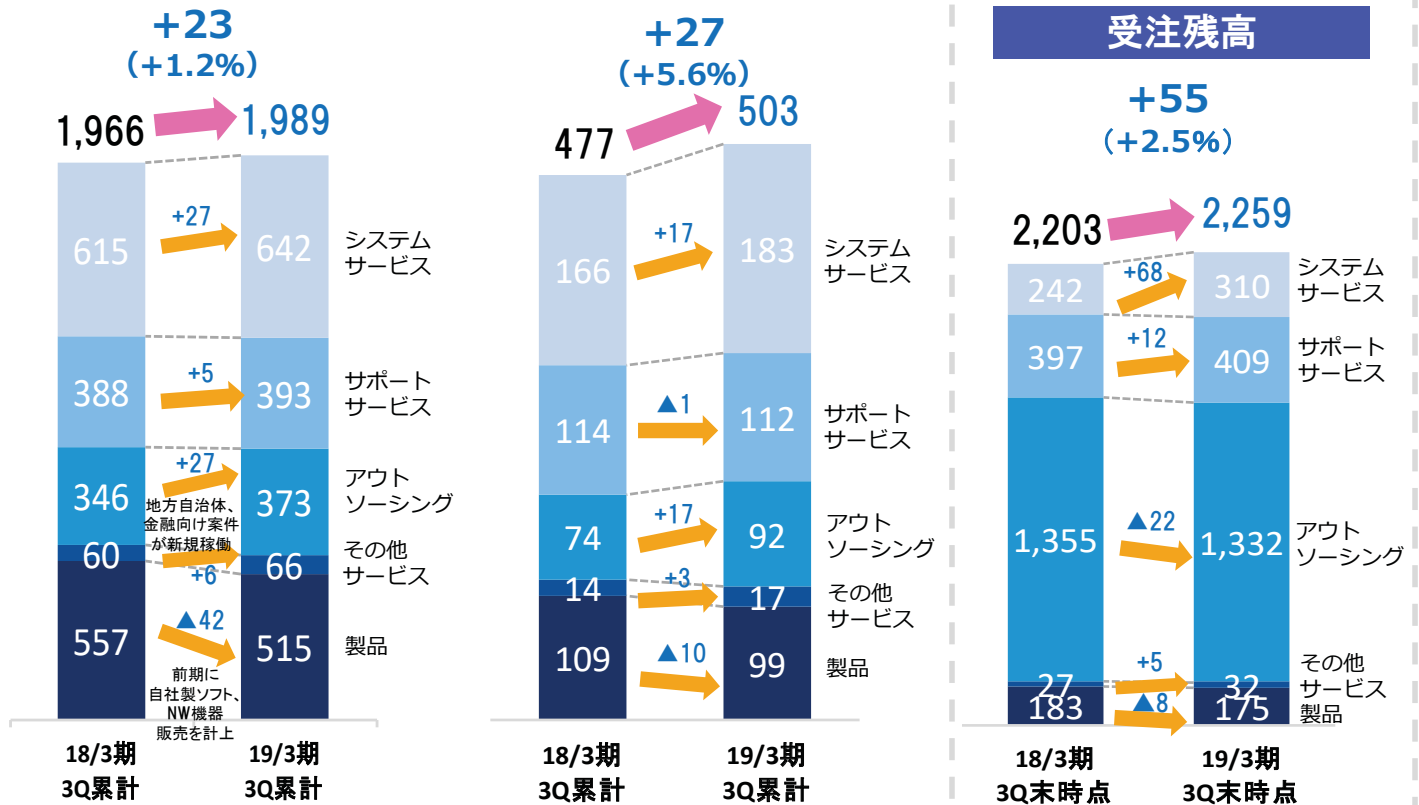
(単位：億円)

売上高

売上総利益

【ご参考】

受注残高



次に、セグメント別の状況についてご説明いたします。資料の2ページをご覧ください。

システムサービスは、金融機関向けオープン勘定系システムの構築や、顧客接点強化に向けたシステム刷新需要も多く、上期に引き続き増収増益となりました。

当第3四半期においては、流通業のお客さま向けの基幹システムのオープン化案件で、残念ながら不採算が▲3億円発生しました。この案件は来期の上期に本番稼働を予定しており、当年度内にテストの大部分が完了する予定となっております。なお、今後のテスト対応における追加リスクに備え、後ほどご説明いたします通期見直しには、▲2億円の費用を織り込んでおります。

残念ながら4年ぶりに不採算案件が発生したものの、システムサービスにおいてはこれまで生産性の改善に取り組んできた効果もあり、不採算の発生を吸収したうえで、収益性は着実に向上しております。

サポートサービスは、第2四半期より取り組んでいるサポート拠点の集約に伴う費用の影響で、増収ながら若干の減益となりました。

アウトソーシングは、当第1四半期より開始した地方自治体向けの新規案件や、前期第4四半期より開始した金融機関向け案件があったことなどから、増収増益となりました。

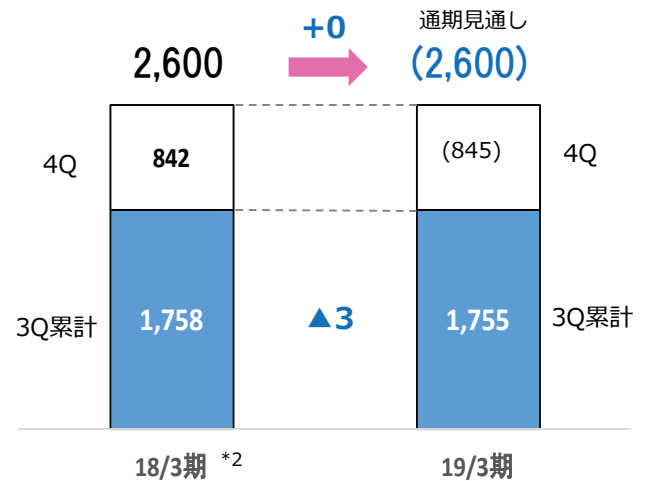
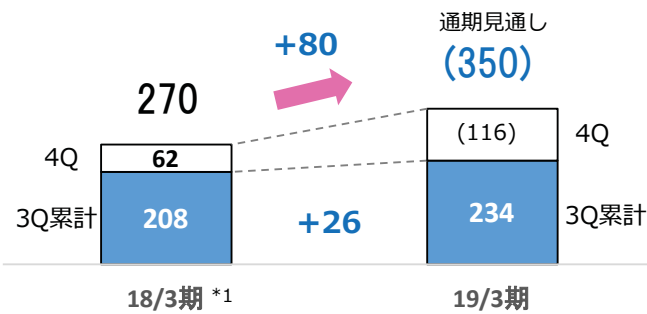
稼働実績の増加などによる運用効率改善効果により、利益率も向上しております。

製品は、前年同期に自社製ソフトウェアや、通信キャリア向け機器販売の計上があった影響で、減収減益となっております。

(単位：億円)

注力領域

ICTコア領域



- ・QR・バーコード決済サービスの取扱高が徐々に拡大。JCBとの提携など、加盟店拡大に向けた取り組みを強化
- ・オープンAPI公開基盤「Resonatex®」で百五銀行と「Origami Pay®」の口座ダイレクト決済連携を実現
- ・金融機関向け営業店窓口業務支援システムの採用が拡大

- ・金融機関向けシステム開発が堅調
- ・地方自治体および金融機関向けアウトソーシング新規稼働
- ・前年同期に比べ通信キャリア向けネットワーク機器販売が減少

*1 18/3期は前中期経営計画での「デジタルイノベーション」「ライフィノベーション」売上高の合計

*2 18/3期は前中期経営計画での「ビジネスICTプラットフォーム」売上高

次に、中期経営計画における注力領域のビジネス状況をご説明いたします。
資料の3ページをご覧ください。

第3四半期における注力領域の売上高は、前年同期比+26億円増加の234億円となりました。注力領域のビジネスは、案件規模が小さいことから売上の伸びは期初計画に比べ若干遅れているものの、第4四半期においてデジタルトランスフォーメーション関連の大口製品販売を予定しており、キャッチアップすべく取り組んでいます。

なお、手数料型ビジネスについては、QR・バーコード決済において取扱高が増加したことや、カーシェアを中心にモビリティサービスプラットフォームの利用が拡大していることなどから、前年同期に比べ増加しております。

通期の売上高、営業利益、純利益の予想は
公表値（11月6日）から変更なし

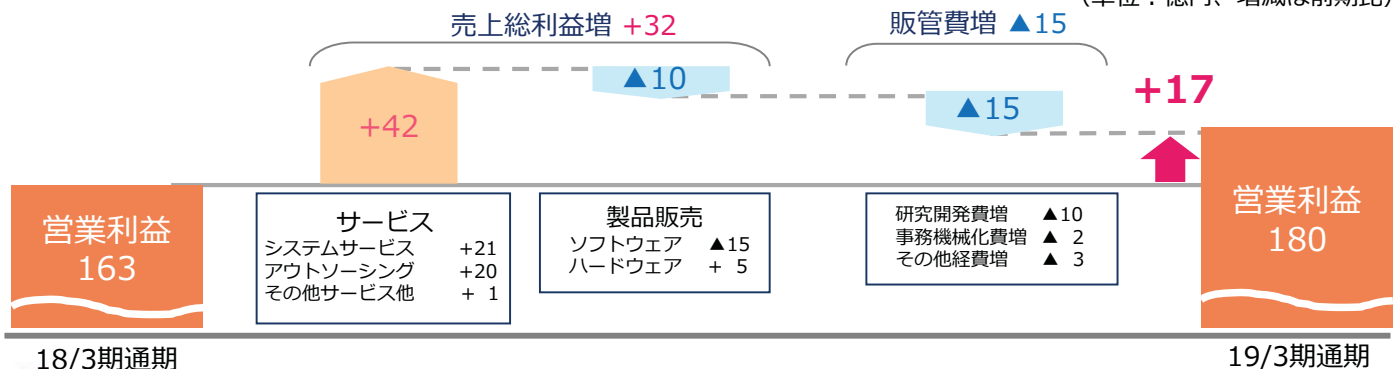
（単位：億円）

	19/3月期 3Q累計実績		19/3月期 4Q予想		19/3月期 通期予想	
	金額	前年同期比	金額	前年同期比	金額	前期比
売上高	1,989	+23	961	+57	2,950	+80
営業利益	121	+27	59	▲10	180	+17
（営業利益率）	(6.1%)		(6.1%)		(6.1%)	
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	90	+22	35	▲17	125	+6

* 通期予想の内訳は補足資料をご覧ください。

【2019年3月期 通期予想 営業利益の増減分解】

（単位：億円、増減は前期比）



次に、業績予想についてご説明いたします。資料の4ページをご覧ください。

通期の売上高、営業利益、当期純利益予想については、11月6日の公表値から変更ございません。通期の売上高は前期比+80億円増収の2,950億円、営業利益は+17億円増益の180億円、当期純利益は+6億円増益の125億円の予想としています。

営業利益の増減分解としましては、売上総利益はサービスおよび製品販売合せて+32億円の増益、販管費は研究開発費の増加などにより▲15億円の負担増を見込んでいます。

また、配当につきましては、期初公表通り、年間配当50円を予定しています。

以上をもちまして、2019年3月期第3四半期 決算概要の説明を終了いたします。

Foresight in sight

UNISYS

(注意)

本資料における将来予想に関する記述は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づいております。実際の結果は、リスクや不確定要素の変動および経済情勢などの変化により、予想と異なる可能性があり、当社グループとして、その確実性を保証するものではありません。また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。